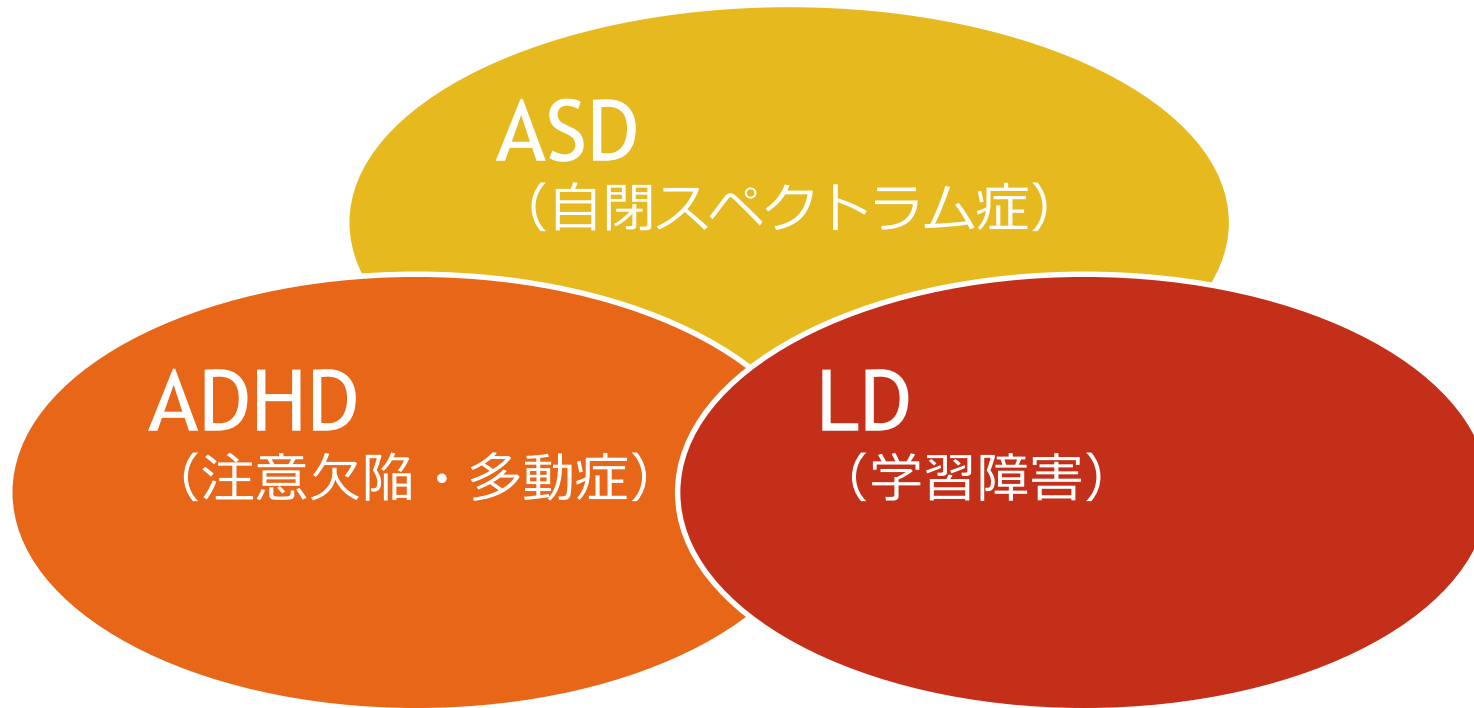


発達障がいの診断



※他に知的障がいや発達性協調運動症などがあります。

診断名が1つでも、他の特性が重複している場合もあるので
要注意です。

発達障がいの特性

子どもさんの行動は、お母さんのしつけが悪いわけでも 勿論 お子さんが悪いわけでもありません。障がいの特性として理解することが重要です。

診断を参考にしながら、特性を理解して その子に合った個別的な対応や支援をユニバーサルスクールでは 大切にしています。

ASD（自閉スペクトラム症）

対人関係が苦手

こだわりが強い

ADHD（注意欠陥・多動症）

落ち着きがない

うっかりミスが多い

LD（学習障害）

勉強が苦手

※ 知的能力の違いや感覚面の違いなども見ていく必要があります。

運動が苦手

※ 診断された特性だけでなく特性が重複している場合は、総合的に対応していくことが大切です。

最大の問題は、二次障がい

二次障がいとは？

- ◎繰り返し叱られたことで、自尊心が著しく傷ついてしまう。
→やがて暴言を吐いたり、自傷行為が出たり、暴力をふるったりするようになる。
- ◎「ダメな自分」を責め続け うつ病などの精神疾患を患う。

二次障がいを防ぐには？

<早期理解と早期対応>

何よりも早期に子どもの障がいの特性を理解すること。
できないことを叱り続けられることは、とてもつらいことです。
生きづらい子どもの気持ちを理解して、環境を整えていくことで
二次障がいは防ぐことができます。
ユニバーサルスクールは、家庭・学校と連携しあうことで、二次障がい
で苦しむ子どもさんへの対応を推し進めていきます。

無理解な環境では、二次障がいが起こる

子どもは苦手なことを要求され、努力してもうまくいかず
厳しく叱責されて、どうしていいかわからず困っています。

「頭の中が整理できない。」

「精神的に落ち込んでくる。」など

心の整理がつかずに悩んだり、落ち
込んだりしています。

いちばん悩んでいるのは、こどもです。
ただ聴いてほしいだけなのです。
否定やアドバイスは要りません。



「どうせ、私が悪いからダメなんだ。」

と 自分に対して否定的になります。

本人の問題ではなく、周りの人の問題

<二次障がいを防ぐポイント>

まわりの人が子どもの発達の特徴に早く気づき、適切に理解し
対応して二次障がいを防ぐことが重要です。